

メロン養液栽培 収入保険へ加入 災害時の長期停電に備え

久野 英敏さん・袋井市

【静岡支局】袋井市の久野英敏さん(53)は、メロンの養液栽培に13・5坪で取り組んでいる。養液栽培は6年前に導入した。

土耕栽培は土壌消毒や苗の移植など体力を使う作業が多い。養液栽培は、育苗トレーから栽培トレーに移動するだけで移植が可能。土作りが不要となり、作業効率向上した。育成日数が土耕より5日ほど短く、

収穫が早くなることも利点だという。

日照時間や温度など天気に合わせて養液の灌水量や肥料濃度を自動的に調整し、スマートフォンで遠隔操作する。栽培を始めた頃は病害の発生があったが、データを蓄積し、同じように養液栽培を始めた5人と情報共有することで、自動灌水の精度を高めている。灌水には地下水を利用。



ネットを確認する久野さん

停電時は水のくみ上げが停止する。災害時に起こりうる長期の停電に備えるため、収入保険に加入した。「安心して農業経営ができるようになった」と久野さんは笑顔を見せる。

袋井市はメロン栽培が盛んな一方、高齢化や後継者不足などの課題を抱える。これまで経験が必要とされてきたが、作業の効率化で

「若手が積極的にチャレンジするきっかけになれば」と久野さん。「将来的には、使われなくなった温室を利用し、関係機関と協力しながら栽培方法を教える学校をつくりたい。新規就農者に活用してもらえれば」と話す。

また、メロンの加工や販路開拓にも積極的に取り組む。果肉をふんだんに使ったアイスクリームをジェラート専門店で販売しているほか、ケーキの移動販売などを視野に入れ、JA遠州中央などと共にピュールを開発している。「多くの人にメロンのおいしさを知ってもらいたい」と意気込む。

(熊谷、赤堀)